

構成員からのコメント・質問

会合の場でも申し上げたが、マーケットリサーチが重要。その観点から、このような情報開示のスキームが整備された場合に、「開示側」「利用側」それぞれで参加する意志があるか、また、どの程度利用することになるかお伺いしたい。

(江黒構成員)

株式会社TOKAIコミュニケーションズ回答

【利用者側として】

情報利用を希望するが、コスト負担は議論の余地あり、市場リサーチを含む費用対効果での判断と考えています。

開示情報の利用頻度について、現状の弊社での新規敷設の検討頻度は年間10件程度であり、その際の開示情報利用を想定しています。年度により検討頻度の増減はあるが傾向に大きな変化はない見込みです。

【開示側として】

前提として開示可否／開示範囲については会社としての最終判断が必要ですが、各公益事業者様との一定のガイドラインのもと、運用すべきものと考えています。

情報提示は出来るが、情報セキュリティの担保や経営上の秘匿性、および開示情報の粒度や更新頻度を鑑みての判断になるものと想定しています。